

米の生産について伺う / 新垣雅士

■6番 新垣雅士議員 米の生産については石垣島に次ぐ県下で2番目の生産量を誇っていた頃もあったようですが、ここ数年で半減している状況です。水田面積で見ますと、平成23年に108.6ヘクタール、平成28年には62.6ヘクタール、令和5年には46ヘクタールとなっています。当然生産量も減少し平成23年には313トン、平成28年には307トン、令和5年には130トンと半減以下に落ち込んでいます。この状況は国の減反政策、生産者の高齢化、取り扱い価格等いろいろな問題が起因しているというふうに推察しますけれども、来年度、念願かなってライスセンターも完成する予定です。近代的な設備になるので生産量が減少していく状況に歯止めをかけて生産を現状維持するのか、増産に向けて取り組みをする施策等があるのかをお伺いしたいと思います。村長いかがでしょうか。

■議長（金城信光） 答弁、名嘉律夫村長。

■名嘉律夫村長 新垣議員の質問にお答えします。ライスセンターを新たに建設しているわけなんですけれども、今議員がおっしゃるとおり、耕作面積が減っていることが非常に大きな問題になると思うんですね。これだけの施設を造って、作付け面積がそれに合う面積でないとなると、非常に大きな問題が出てくると思います。ですからなんとかこの面積の拡大、今後の重要課題の一つとして取り上げていきたいと考えているところです。

余談になるんですけど、実は内閣からも「これだけの施設を造るのに、耕作放棄地が多い」という指摘をされています。特に製糖工場の裏辺りですね、新しい建設が始まっているんですけども、耕作されていないと。場所的にも非常に目立つところなんです。ですからなんとかこの問題を今後、担い手をいかにして確保していくかは、大きな課題の一つとして農林水産課と生産農家と取り組んでいかなければいけないと思っております。

実際、作付け面積が減少している理由にはですね、やっぱり高齢化に含めて担い手もいない。その中で機械の導入に非常に経費がかかるということで、非常に負担が大きいうえになかなか採算が取れないという状況になっています。今後その問題についても相談しながら、機械導入について支援ができるメニューがあるのであれば、やっていきたい。

伊是名では法人で米を作っている方がいます。法人であれば、これからも面積の拡大は可能であると思っております。法人を作るって言っても参加される方がどれだけいるか検討がつかないんですけど、なるべく法人化をしていって機械の導入もしていけるんだっただけでいくというかたちで生産量を上げていかないと、これは大きな問題があるってことは十分認識しているところです。いずれにしてもこの問題の解決については、今後しっかり行政として取り組んでいきたいと思っております。

■議長（金城信光） 答弁終わりました。新垣議員。

■6番 新垣雅士議員 村長からありました法人化ですね、法人化それから集落営農、そういうものを提唱して島の農業人口を増やしていけるような対策、それを私も望んでいます。まず農業法人を作るとなると行政側としてどのような支援ができるのか、法人でいろいろやられる方々がいる話も聞いていますけども、行政側が指導して法人を作らせてあげる、集落営農するとか、そういうことについての支援、

指導的なものができるのかどうかお伺いします。

■議長（金城信光） 答弁、伊礼直樹農林水産課長。

■伊礼直樹農林水産課長 新垣議員の質疑にお答えします。農業法人に関しては、現在水田を中心とした法人を立ち上げたいというお話は伺っております。その中で実際行政としてサポートできるところは支援を行っていきたいと考えています。次年度4月以降の話も聞いていますので、そのへんまでに内容をお伺いして、今後サポートできることは支援していきたいと考えています。以上です。

■議長（金城信光） 答弁終わりました。新垣雅士議員。

■6番 新垣雅士議員 サポートできる範囲内ではサポートしていくというお考えであるようです。是非、行政側が中心となった法人化あるいは集落営農、そういうところの手助けをして水田のみならずサトウキビもこういう法人を作ることによって、先程村長がおっしゃっていた機械の購入も容易になるということでもありますので、是非支援をして島の農業を守り続けていくようお願いして、私の質問を終わります。